

広島派遣研修を振り返って

能生中学校 2年1組 井伊 智紀

自分が広島派遣で最初にしたのは平和記念公園での千羽鶴の献納です。平和祈念式典の前日ということもあって、かなりの人が来ていました。千羽鶴もたくさん納められていて、これだけの人が広島に原爆に関心を持って来ていることを実感しました。その次には被爆者の遺族の方の話を聞きました。その話の中でも特に印象が大きかったものの一つが原爆が落ちた時に発生した熱風で表面が焼けて、泡のように表面がふくらみ、変色した屋根瓦です。復興が進んだ後にも残り、高校生の教材としても使われていたと聞いて、再び原爆の恐ろしさについて学ぶことができました。

二日目の8月6日には、平和記念公園で行われる平和記念式典に参列しました。そこでは広島市長や市議会議長、遺族代表、こども代表などの平和を願い、それに向かうための宣言を聞いて、その内容にある問いかけなどには、深く共感しました。

その後に大和ミュージアムのある呉市まで電車で向かい、到着するまでにも巨大な港や、運搬用のクレーンなどを見ることができました。大和ミュージアムでは最初に呉の攻めづらく、守りやすい地形などから軍事施設がおかれるようになったことや、戦艦「大和」がどのように使われたのかなどを解説してもらいました。その後に館内見学をし、「大和」の模型や、乗組員の遺品なども展示されていました。その中でも特に特攻兵器「回天」は、それ自体の残虐さ、それを使った人の家族に向けたメッセージはとても悲痛なものでした。その他

にも当時使われていた爆弾などもあり、戦争のスケールに、改めて驚かされました。それを見て、国民が貧しくなるほどの資金を使い、数えることもできないほどの命を失くしても、得られるものは何もない戦争の無意味さを感じました。

そして次に夜に行うとうろう流しのためのメッセージの作成をしました。日中に行った記念式典と大和ミュージアムで学んだおかげで、より真剣に、増えた知識でメッセージを書くことができました。自分が書いたのは「戦争を始めるのは人間、でも傷ついたり悲しんだりするのも同じ人間だ。」というようなもので、普段よりよく考えることができたと思います。そしてとうろうを元安川に流し、平和への祈りを捧げました。段々と暗くなる中、ゆらゆらと川を流れるたくさんのとうろうは、その一つ一つに感情に関わらず様々な人の平和への祈りや願いがこもっていることをとても強く感じられました。

最終日には、平和記念公園にある平和記念資料館の見学をしました。平和記念資料館には、原子爆弾と広島に関する資料が多く展示されていました。原爆が落ちたところの絵なので悲惨なものばかりあるけれど、それも戦争の悲しさを知る重要なものなので、どんなに悲惨で残酷なものだったとしても、しっかり見て、知ることがとても重要だと感じました。
